

第 1 回 授業研究会

研究テーマ

自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして
～情報活用能力を育てる授業デザイン～

6 年 国語科

鎌倉のよさを伝えるパンフレットを作ろう
『いざ！なぜ？鎌倉！』



平成 27 年 7 月 8 日 (水) 5 校時 第 6 学年 4 組教室

授業者 川崎市立富士見台小学校 黒田 俊介 教諭

指導・講評 川崎市総合教育センター 情報・視聴覚センター

椎名美由紀 指導主事

13:15

13:40

14:25

14:40

16:05

受付 (体育館)	授業公開 6 年 4 組教室	移動	全体会 研究協議 (体育館)	指導講評
-------------	-------------------	----	----------------------	------

第6学年4組 国語科学習指導案

指導者 川崎市立富士見台小学校 黒田 俊介

1. 日時・場所 平成27年 7月8日(水) 6年4組教室
2. 単元名 鎌倉のよさを伝えるパンフレットを作ろう『いざ!なぜ?鎌倉!』
3. 単元の目標

指導事項「B書くこと」

- ◎パンフレットという様式の特徴を理解したうえで、集めた事柄を整理し、相手に応じた文章全体の構成や表現、目次や見出し、リード文、解説文などを工夫することができる。
- 引用したり、写真や図を用いたりして、伝えたいことが明確になるように書くことができる。
- パンフレットについて、目的や構成の観点から助言し合うことができる。

4. 評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○構成や記述のしかたを考え、パンフレットを作ろうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことを決める際、ブレインストーミングを活用して、アイデアを出し合っている。 ○文章全体の効果を考えて構成するとともに、キャッチコピーを付けるなど、表現を工夫して書いている。 ○目的や相手の知りたい情報に応じて、文章の内容を考えている。 ○図表やグラフの特徴、効果を考えて用いている。 ○他の人の文章について、目的に照らし合わせてよりよくするための助言をしている。 	○効果という観点から構成や表現を考えて書いている。

5. 単元と児童

(1) 単元について

本単元は、町を訪問する人に対して、パンフレットを作り案内をするという設定で課題が示されている。これまでの「書くこと」の学習で培ってきた力を発揮する内容となっている。今回は、鎌倉を題材として5年生に向けてパンフレットづくりを行う。5年生が「鎌倉に行ってみよう」と思えるような情報が必要だということを意識させることが重要である。そこで、調べ学習や見学で6年生が感じた「なぜ?」を記事に入れることにした。本やインターネットで調べた情報をただ載せるだけでなく、6年生が感じた「なぜ?」と、わかった喜びを「答え」として記事に盛り込むことで、5年生も興味をもちやすい6年生ならではのパンフレットを目指す。複数の情報内容を編集する活動では、構想から取材、割り付け、執筆、推敲と多くの過程が必要となる。共同で1つのパンフレットを作成するには編集会議の必要があり「表現の効果」を考えていく上で、各過程でブレインストーミング等の有効な交流活動を行うことも大切にしていきたい。

(2) 児童について

これまでの学習経験として、編集会議に通じる「話し合ってみよう」ことは、低・中学年を通じて体験している。取材では3年「気になる記号」、構成・編集では、4年で新聞づくりを経験している。この経験を踏まえ、相手や目的を考え、効果的に伝える力を協働的に学び高めていきたい。児童の実態として、思いはあるもののうまく表現ができなかったり、知識面にとらわれ、かたい文章になったりしてしまうことがある。そこでブレインストーミングを活用して、批判的な発言のない中で自由に発言し合うことで、視野の幅を広げていく。また、話し合いが得意な児童が苦手な児童を引っ張っていくことで、お互いに高め合いながら話し合いを活発に進めていくことを目指す。本単元の「書くこと」をねらいにおいたパンフレット作りの学習では、協働学習を通じて、自分の考えを見直したり深めたりして、相手や目的を考え、効果的に伝える力をつけていきたい。

9. 手だて

(1) 本授業に向けての取り組みについて

- ・協働学習を行いやすいよう、グループを4～5人1組の6グループ編成とした。
- ・初めに5年生にどんなパンフレットを作っていくかを話し合わせ、そこで出た考えを元に鎌倉見学のコースを選択するように流れを組んだ。

歴史に注目コース	地形に注目コース	まちづくりに注目コース
①鶴岡八幡宮 ②鎌倉国宝館 ③寿福寺 ④化粧坂切通し ⑤源氏山公園 ⑥銭洗弁財天 ⑦高德院	①建長寺 ②半僧坊 ③亀ヶ谷切通し ④化粧坂切通し ⑤源氏山公園 ⑥銭洗弁財天 ⑦高德院	①建長寺 ②鶴岡八幡宮 ・本宮 ・舞殿 ・流鏑馬馬場 ・平家池・源氏池 ③若宮大路 ④由比ヶ浜大通り ⑤長谷寺 ⑥高德院

(2) 情報活用能力を育てるために

- ・ブレインストーミングの活用

まず、ブレインストーミングを行う上で4つのルールを設けた。

1. 「批判的な意見は言わない」
2. 「自由に発言してよい」
3. 「内容にこだわらずとにかく発言すること」
4. 「友だちのアイデアを膨らませること」

批判的なことを言わないようにすることで、否定されることへの心配をなくし自由に発言ができる環境をつくった。また、いきなり始めるのではなく、話し合いが始まる前に各自で考える時間をとった。各自で考えをまとめる時間をとることで、何も無い状態で発言を求められる時よりも、発言が増えることをねらった。事前に考えたことがなくなった後にも、思いついたことがあれば発言するようにも伝えた。内容よりも量を重視することで、より多くのアイデアを出し、広い視野で考えられた意見がでるようにしてくことを大切にされた。友だちの意見を聞くことで、そこから連想したり、自分のアイデアを加えたりして新しい意見として出すことの良さを伝えた。出てきた意見は関連する内容ごとのグループにしてまとめていった。

それらのルールを踏まえて、初めにグループで鎌倉について調べながらブレインストーミングを行った。そこでは、それぞれが興味をもったこと、行きたい場所などを自由に発言し、その中から目的に合わせた見学コースを決定した。また、鎌倉見学後にもう一度ブレインストーミングを行うことで、実際に見学した後でのパンフレット作成の方向性を改めて確認し、グループのメンバーが同じ方向を向いてパンフレット作りに取り組めるようにした。

これらの活動の中で、話し合いが得意な児童だけでなく、苦手な児童も積極的な参加を促すことができた。また、少人数のグループにすることで、全体への発表が苦手な児童も発言しやすい環境をつくった。ブレインストーミングを行うことで、一人では考え付かないような意見の広がり大切に、パンフレット作りへ生かしていけるようにした。

- ・放送番組の活用

NHK for school の放送番組を活用し、記事のレイアウトや写真の撮り方、選び方などを補足した。

- 写真について

伝える極意「この1枚に思いをこめて～写真～」では、同年代の子どもたちが自分の思いを写真に表すにはどのようにしたらいいか悩みながら、プロのカメラマンのアドバイスを元に自分の思いに近づけるための撮影方法が紹介されている。スピーチ活動で生かしていくために朝の時間を使用し、視聴した。

メディアのめ「写真一枚で世界を切り取れ！」では、アップやルーズ、撮影する向きによって、写真を見た人の受け取り方、伝わり方の違いが紹介されている。本単元の中では、鎌倉見学の前にあたる第4時で視聴し、目的に合わせた写真を撮影できるよう意識づけをした。

- 記事について

伝える極意「限られた文字数で事実を伝える～新聞～」では、読みたくなるような文章とはおもしろい文章であり、おもしろい文章とは他の人が知らない情報であることが紹介されている。他にも具体的な情報を載せることや物語性をつけること、推敲してよりよい文章にするための方法が紹介されている。これらを記事に生かすために下書きを始める第8時に番組を視聴した。

お伝と伝じろう「言葉が人をひきつける」では、読んだ人がやってみたい、読んでみようかなと思うようなキャッチコピーの作り方を紹介している。相手を意識した伝えたいことの中から、より伝えたいことを選び、作り上げたキャッチコピーを磨いていくことで、人を引き付ける言葉の作り方を学ぶ。ここでは小見出しとして活用を目的とし、第9時に番組を視聴した。

- レイアウトについて

メディアのめ「工夫がいっぱい！新聞づくり」では、記事のレイアウトや見出しと記事の関係、写真の選び方が紹介されている。見出しはそれを見るだけで記事に何が書かれているかわかるものであり、記事で一番伝えたいことが見出しに表れていることが大切であることを確認できる。また、同じ事象を伝えるときにも相手や目的に応じて、記事の内容や写真が変わってくることを学べる。本単元、第7時に番組を視聴した。

(3) 日常的な取り組みについて

- ・朝の会でのスピーチ

紹介したい場所や物の写真を用意し、それについてスピーチをして思いや考えを伝える。その写真で自分が一番伝えたいことをはっきりと決めることで、話題の中心を意識し、話の構成がしやすくなることを指導した。また、同じものでも撮影のしかたを工夫することで、写真とスピーチの繋がりが深まり、伝えたいことがより伝わりやすくなることも伝えた。

- ・画用紙を使った話し合い活動

授業の中でホワイトボードや画用紙を使い、自分の考えを伝える機会を多くとってきた。班での考えをまとめる時には、それぞれの考えが書かれたノートやワークシートを持ち寄り、書きこんで、みんなに発表する活動を取り入れた。画用紙にまとめられた考えなどを掲示しておくことで、次の授業で前時の考えを生かすことにも役立てられるようにした。

- ・ICTの活用

教師が50インチテレビや教材提示装置を日常的に活用していくことで、自然と子どもたちからそれらを活用してみたいという意欲を引き出すことができた。言葉だけでは伝わりにくいことを、表や図・写真を使い、いつでも発表ができるように教室の環境を整備した。